

会

報

社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail jsp@ma.kcom.ne.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 182 号

平成 15 年 (2003 年) 3 月刊

1. 「病理専門医」資格の広告について

社団法人日本病理学会は、平成 15 年 2 月 24 日付で、厚生労働省から「専門医資格認定団体」として認められました。このことにより、本学会の認定する「病理専門医」資格について、平成 15 年 2 月 24 日から広く社会一般に広告することが可能となりました。

〈例〉

〇〇〇〇病院
 日本病理学会認定 病理専門医
 医師 〇〇〇〇 (氏名)

日本病理学会としても、このような病理専門医の広告が、医療を受ける患者サイドにとって病院の正しい機能表示となるよう活動を続け、さらに専門医制度の充実に努めます。

この「広告」のできるの、本学会ホームページで名前が公開されている専門医です。

なお、正式な発表につきましては、下記厚生労働省のホームページをご参照ください。

医療に関する広告が可能となった医師等の専門性に関する資格名等について

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/02/tp0224-1.html>)

2. 学術委員会報告

2 月 21 日の学術委員会で、平成 15 年度秋期特別総会の A 演説、B 演説を決定しました。それぞれ 25 題、8 題の応募があり、以下のとおり 10 題、4 題が採用となりました。

A 演説 (応募順)

1. 肺癌における細胞 lineage の意義：谷田部 恭 (愛知県がんセンター遺伝子病理診断部)
2. 早老症 Werner 症候群における発がん分子疫学：石川 雄一 (《財》癌研究会癌研究所病理部)
3. 糖尿病網膜症における眼内血管新生病変形成の分子機構 — 組織低酸素状態の病態への関与 —

池田 栄二 (慶應義塾大学医学部病理学教室)

4. 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化関連蛋白の役割：伊藤 浩史 (宮崎医科大学病理学第 2 講座)
5. 新規マスト細胞接着分子 SgIGSF の単離とそのマスト細胞の生存における役割：伊藤 彰彦 (大阪大学大学院医学系研究科病理病態学)
6. Epstein-Barr virus 関連胃癌における癌化機構の解析：鄭 子文 (東京大学大学院医学系研究科人体病理学分野)
7. ほ乳類の老化遅延、寿命延長機構：GH-IGF-1 抑制とカロリー制限の相違：下川 功 (長崎大学大学院歯薬学総合研究科医療科学専攻病態解析制御学)
8. EB ウイルスによるシェーグレン症候群発症機構の検討：斎藤 一郎 (鶴見大学歯学部口腔病理学講座)
9. 瘻芽腫及び solid-pseudopapillary neoplasm の組織学的・分子生物学的新知見：田中 祐吉 (神奈川県立こども医療センター病理科)
10. 癌の転移における Valosin-containing protein (VCP) の役割：富田 裕彦 (大阪大学大学院医学系研究科病理病態学講座)

B 演説 (応募順)

1. 多発性 GIST3 家系の病理学的解析：廣田 誠一 (大阪大学医学部附属病院病理部) 北村 幸彦
2. 良性脊策細胞腫：脊策細胞由来腫瘍の疾患概念の考察：山口 岳彦 (獨協医科大学越谷病院病理部)
3. 前立腺性酸性ファスファターゼは Intravascular Lymphoma の腫瘍マーカーとなりうるか：関邦彦 (虎の門病院病理部) 李 康弘 松下 央谷口 浩和
4. 肺原発印環細胞癌の臨床病理学的解析：蔦 幸治 (国立がんセンター東病院 臨床検査部病理検査室) 石井源一郎 児玉 哲郎 落合 淳志

3. 選挙結果について

病理専門医制度運営委員会および口腔病理専門医制度運営委員会の学術評議員委員（平成15～16年度）につきまして選挙（学術評議員による郵便投票）を実施した結果、下記のとおり選出されましたので、お知らせいたします。

(1) 病理専門医制度運営委員会：4名（ABC順）

橋本 洋
黒田 誠
清水 道生
田村 浩一

(2) 口腔病理専門医制度運営委員会：3名（ABC順）

小宮山一雄
武田 泰典
山本 浩嗣

4. 関東支部夏期病理診断セミナーのご案内について

関東支部夏期病理診断セミナーが下記の通り開催されます。奮ってご参加ください。

記

日時：7月19日（土）13:00-19:30

7月20日（日）9:00-12:40

場所：埼玉医科大学総合医療センター

世話人：糸山 進次（埼玉医科大学総合医療センター病理）

対象：（社）日本病理学会関東支部会員

募集人員：40名（申し込み順、40名を越える場合は各施設1名とします）

テーマ：骨髄組織標本の見方

内容：血液疾患の概略、塗抹標本の見方、組織切片の基本的見方、白血病、リンパ腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖疾患群、巨核球の異常など

講師：堀田 知光先生 東海大学医学部内科学系血液・腫瘍・リウマチ内科学教授

定平 吉都先生 川崎医科大学病理学教授

伊藤 雅文先生 名古屋大学病理部助教授

根本 啓一先生 新潟県立癌センター病院病理部部長

茅野 秀一先生 埼玉医科大学病理学助教授

糸山 進次先生 埼玉医科大学総合医療センター病理学教授

受講料：20,000円（含む ハンドアウト）

懇親会費：川越第一ホテル 海鮮処 光太夫 5,000円

宿泊料：JR 東武東上線川越駅徒歩3分

川越第一ホテル 10,000円（一泊一食、送迎付き、宿泊についてはセミナー事務局で取り扱います）

問い合わせ先：

事務局

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981-1

埼玉医科大学総合医療センター病理部

黒田 一

TEL & FAX：049-228-3522

E-mail：hajime@saitama-med.ac.jp

5. Surgical Pathology Update 2003 参加者募集

日時：2003年6月20日（金）から22日（日）

場所：湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町）

テーマ：

「子宮体頸部腫瘍と軟部腫瘍」, Faculty: Steven G. Silverberg 教授 (Maryland 大学), Christopher D.M. Fletcher 教授 (Harvard 大学), 橋本 洋教授 (産業医科大学), 森谷卓也助教授 (東北大学)。

参加希望者は、SPU 2003 参加希望、氏名（英語も）、年齢、性別、所属（英語も）

連絡先（住所、電話、FAX、e-mail）: IAP 日本支部会員か非会員を明記の上、ファックスか e-mail で申し込みを。

FAX: 042-996-5193I

IAP 日本支部常任幹事: 松原 修 (防衛医科大学校) 宛

E-mail: matubara@cc.ndmc.ac.jp

お知らせ

1. 神奈川科学技術アカデミー平成15年度研究助成の募集について

申込み締切り：平成15年4月10日

連絡先：（財）神奈川科学技術アカデミー教育交流部交流普及課

〒213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1

TEL: 044-819-2032 FAX: 044-819-2097

2. 「第17回先端技術大賞」の募集について

申込み締切り：平成15年4月11日

連絡先：日本工業新聞社先端技術大賞事務局

〒100-8125 千代田区大手町1-7-2

TEL: 03-3273-6102 FAX: 03-3273-6124

1. 日本病理学会コンサルテーション事業

(目的) 病理診断に関して病理医相互の協力によって、診断の精度を高めるとともに、診療に役立つより多くの情報を引き出し、医療に貢献すること

(基本方針) 病理診断の**最終責任は依頼者**にあることを確認したうえで、日本病理学会が適切なコンサルタントの紹介、有益なコンサルテーション意見を与えること

2. 依頼者の資格

依頼者は原則として日本病理学会員とします。会員以外の臨床医からの依頼も受け入れますが、その際には、担当病理医の了解を得たうえで、担当病理医の病理診断書のコピーを同封してください。

3. 依頼者が送付するもの (注: 送付標本のセット数、手数料振込み先などが従来方式から変更されています)

(1) 所定用紙 (A, B 用紙)

① 本誌綴じ込みの日本病理学会コンサルテーション依頼用紙 (A, B) をコピーしてお使いください。A 用紙に病歴 (臨床経過、治療・処置)、肉眼所見・切り出し図、特染、依頼者の病理診断を記載してください。症例の問題点など、記載しきれないときには、別紙に記載してください。必要があれば、肉眼写真、X 線写真、電顕写真なども送ってください。

② B 用紙はコンサルタントを選ぶために使用します。必ず記入のうえ同封してください。コンサルタントとして希望される方があれば、記入してください。

③ コンサルタントが使用する報告用紙 (C 用紙) は事務局で用意しますので必要ありません。

(2) ガラス標本

① HE 染色標本 1 セットおよび未染標本 10 枚前後をお送りください。免疫染色や特染なども必要に応じて同封してください。標本はコンサルタントの手元に保管され返却されません。

② ガラス標本が破損しないよう、十分注意してください。また封筒の破損、標本とケースあるいは標本同士の粘着も多くみうけられます。

(3) 返信用封筒

80 円切手を添付した依頼者宛返信用封筒を 1 枚同封してください。報告はコンサルタントから直接依頼者へ郵送されます。標本は原則として返却されません。標本の返却を希望する際には、その旨記載して標本返送用の特殊封筒を同封してください (切手添付のこと)。

(4) 手数料

あらかじめ 3,000 円を下記の郵便振替口座に払い込み、その払い込み票のコピーを同封してください。銀行振り込みをご希望の方、あるいは各施設独自の払い込み方法をご希望の方は病理学会事務局にお尋ねください。

郵便振替口座払込先: (加入者名) 日本病理学会 (口座番号) 00130-4-32817

4. 依頼者が了解しておくこと

コンサルタントの報告は通常 2 週間程度で返送されます。症例の**最終診断の責任は依頼者**にあることにご留意ください。コンサルタントには無報酬でお願いしてありますので、コンサルタントにとって過度の負担とならぬよう的確な依頼書の作成と標本の送付をお心がけてください。また、特染の無理な依頼、過度の枚数の標本の送付、所見の記載不備などが生じないようにご配慮ください。回答が遅れている時やその他の問い合わせは病理学会事務局までお願いします。

5. コンサルテーションの送り先

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-9 ニュー赤門ビル 4F

日本病理学会事務局内 コンサルテーション係

郵送の事故を防ぐため、簡易書留あるいは宅配便をお使いください。

電話：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936 E-mail：jsp@ma.kcom.ne.jp

6. コンサルタントにお願いする事項

- ① コンサルテーションを受けた場合は、速やかにご回答ください。ご自分の専門領域でない症例、お得意の分野でない症例の場合、あるいは時間的余裕のない場合には、お断りいただいて結構です。その場合には標本を速やかに日本病理学会事務局に返送下さい。その際適当なコンサルタントをご紹介いただくと幸いです。
- ② 長期出張等でコンサルトを引き受けられない期間はあらかじめ病理学会事務局にご連絡ください。
- ③ 報告用紙（C用紙）は原本を依頼者へ、コピーを事務局へお送りください。B用紙のコンサルタント記入欄に記入のうえ、B用紙は事務局宛に返送してください。
- ④ 依頼者へE-mailで報告した場合でも、必ず郵送で報告用紙（C用紙）とB用紙を記入し事務局にお送りください。事務局にB・C用紙が郵送で届いた時点がコンサルテーション終了の日時として正式に記録されます。
- ⑤ 報告するにあたってのデータの不明点などはご自由に依頼者にお尋ねください。

7. 当該症例のプライオリティについて

コンサルテーションを依頼された症例の報告の際には、その出所である依頼者に優先権があると考えられます。コンサルタントが依頼症例を研究資料として使用する際には依頼者と患者様の同意が必要です。その際には、依頼者にご協力をお願いいたします。また、依頼者が症例報告をする場合でもあらかじめコンサルタントとよく話し合ってください。

8. コンサルタント名簿（平成15、16年度）

相羽元彦、青笹克之、秋山太、中英男、新井榮一、石井恵子、石倉浩、石黒信吾、石田剛、泉美貴、伊東正博、伊藤雅文、糸山進次、井内康輝、今北正美、岩崎宏、岩下明德、上田善彦、大島孝一、岡輝明、岡田憲彦、岡安勲、沖坂重邦、小幡博人、覚道健一、鹿毛政義、加藤良平、金井弥栄、神山隆一、亀井敏昭、亀田典章、河合俊明、河端美則、清川貴子、黒田誠、小池盛雄、神代正道、小西二三男、小橋陽一郎、小林旗雄、坂元吾偉、坂元亨宇、坂本穆彦、朔敬、笹野公伸、定平吉都、佐野寿昭、志賀淳治、清水道生、下田忠和、城謙輔、白石泰三、調輝男、新宅雅幸、須田耕一、滝沢登一郎、武村民子、立野正敏、田所衛、田中祐吉、田丸淳一、津田均、堤寛、恒吉正澄、手島伸一、豊島里志、都築豊徳、長尾孝一、長尾俊孝、長坂徹郎、中里洋一、中島伸夫、中嶋安彬、長嶋和郎、長嶋洋治、名方保夫、中沼安二、中峯寛和、中村栄男、中村眞一、中山雅弘、二階堂孝、仁木利郎、根本則道、野島孝之、橋本洋、長谷川匡、秦順一、浜崎豊、林良夫、原一夫、広川満良、広瀬隆則、深山正久、福島昭治、福田悠、福永真治、船田信頭、古里征国、増田弘毅、松下央、松野吉宏、松本俊治、松谷章司、真鍋俊明、三浦圭子、三上芳喜、水口國雄、宮内潤、向井清、村上俊一、本山梯一、森永正二郎、森谷卓也、八尾隆史、柳沢昭夫、由谷親夫、横井豊治、吉野正、渡辺英伸、渡辺騏七郎

日本病理学会医療業務委員会
同コンサルテーション小委員会

受付日 年 月 日

日本病理学会コンサルテーション依頼用紙 A

(全ての項目についてできるだけ詳細に記載してください)

ふりがな 依頼者氏名:		依頼日: 西暦 年 月 日	
依頼者所属:		患者の所属病院名:	
病理学会: <input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員		標本番号:	
患者イニシャル: (姓名は記入しないこと)		年齢: 才 男 女 職業:	
臨床診断: 1.		2.	
		3.	
標本の種類: <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> 剖検 <input type="checkbox"/> 細胞診 <input type="checkbox"/> その他 (具体的にご記入下さい)			
臓器名:	部位:	採取日: 西暦 年 月 日	
臨床経過:			
治療・処置:			
肉眼所見:			
切り出し図:			
特染:			
問題点:			
依頼者の診断:			

受付日 年 月 日

日本病理学会コンサルテーション依頼用紙 B

ふりがな 依頼者氏名:	回答の送付先: 〒
電話:	
FAX:	
E-mail:	
コンサルタント指定: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (氏名 1. _____ 2. _____)	

依頼者記入欄

コンサルテーション症例の該当する領域

(疑われる病変と臓器組織から該当する番号の□に✓を記入してください。コンサルタントを選ぶ上で必要です)

1□腫瘍 2□悪性リンパ腫疑い 3□非腫瘍 3□感染症 4□不明

01□心	11□食道	22□外陰・膣・子宮・ 卵管	31□脳・脊髄腫瘍
02□血管	12□胃	23□卵巣	32□中枢神経変性疾患
03□眼	13□腸	24□胎盤	33□筋肉
04□口腔	14□腹膜	25□リンパ節(脾を 含む)	34□骨
05□頭頸部(唾液腺、 鼻腔を含む)	15□肝	26□骨髄	35□軟部
06□耳	16□胆	27□下垂体	36□皮膚
07□縦隔	17□脾	28□甲状腺・副甲状 腺	37□小児
08□肺の炎症性疾患	18□腎炎	29□副腎	38□全身性疾患(膠原 病を含む)
09□肺の腫瘍性疾患	19□前立腺	30□乳腺	39□その他 ()
10□胸膜	20□腎、膀胱		
	21□精巣・精囊・陰 茎・陰囊		

依頼者へ: A, B 用紙とも必要事項記入のうえコンサルテーション事務局へお送りください。

コンサルタント記入欄

A□ 比較的容易な症例で5年前後の経験で診断可能である
B□ 診断にかなりの経験を要すると思われる
C□ 資料や標本の不足で診断に苦慮した、不適切なコンサルテーション例である
D□ 依頼症例は自分の研究対象の症例に合致し、興味深く有用である
E□ 専門外の症例であり、むしろ他のコンサルタントに送られるべきである
F□ 教育的な症例である
ご意見 ()

コンサルタントへ: C 用紙(報告用紙)に報告を記入しコピーのうえ、原本を依頼者へコピーを病理学会事務局へお送りください。本 B 用紙は事務局あてに返送ください。